平成３０年１１月 経営協議会議事録

Ⅰ．日　時　　平成３０年１１月１５日（木）　１４時００分～１６時０６分

Ⅱ．場　所　　学術総合センター　一橋講堂特別会議室１０１～１０３（１階）

Ⅲ．出席者　　徳久学長、有馬、犬養、加賀見、河田、黒木、銭谷、西堀、萩原、
　　舩橋、宮坂、
　　中谷、関、山田、松浦、小澤、金原、中山、山本、齊藤各委員

　　ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　　桑古監事
　　（欠席者：岩田、香藤、島田、正宗、渡邉、堀、佐藤各委員）

Ⅳ．前回議事録について
　原案のとおり承認された。

Ⅴ．審議事項（◎学外委員、○学内委員）
１．授業料改定について
　中谷理事から、本学におけるグローバル化に向けた主な取組や国立大学法人の授業料等の仕組み等について、資料に基づき説明があった後、小澤副学長から、授業料改定を視野に入れたグローバル人材育成に向けた教育環境整備の内容について、資料に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

　主な意見は以下のとおり。

◎　授業料は上げて当然だと思うが、理工系や医学系がお金がかかるので、文系と理工系、医学系の差をつけないとだめだと思う。工学部は１．５倍、医学部は３倍とするなど、次回は是非検討していただきたい。また、入学試験の料金が１７，０００円は安いと思う。これについても次回は検討されたほうがよいのではないか。

◎　国立大学は、なぜ授業料が安いのか。これには理由があって、家庭環境に恵まれなくても優秀な学生が高い教育を受けられて、社会に出て役に立つ、そういう目的があったからだと思う。いろいろな給付型の奨学金や留学をする際の様々な助成金というのは大変良いことで、現在より後退しないというお話だったが、少しでも前進、厚くし、是非、貧しい子弟に高度な教育を与えられる機会をより拡大していただきたい。今回の授業料値上げの目的が書かれているが、私立大学も同じことをやっていて、そもそも何で国立大学があるのかということを、どう説明するのか。もう１つは、学生を育てるのは、先生だと思うので、先生に学生を育てる熱い気持ちを持ってもらいたい。

◎　提案されていることには賛成するが、家庭環境で排除されることがないようにしていただきたい。改定に伴う授業料免除について、全額免除や半額免除の規模も多いので良い印象を受けた。

◎　授業料改定を検討する時に、併せて奨学金制度も検討していただきたい。経済的

に厳しくても優秀な人をどれだけ増やしていくかが大学の将来につながっていくのではないか。

◎　今回は、文系と理系は同様の授業料であるが、一般的に理系の方がお金がかかると思う。理系、文系で補助的に支給するものに差をつけ、文系の人の留学により手厚い支給をするといったことも検討する余地があるのではないか。

◎　授業料値上げに関して、全員留学というスローガンは、すごく波及する点があると思う。卒業する学生の質の保証や国際的に活躍できる学生を輩出することになると思うので、これは千葉大学の特徴として、今後ずっと続けていくべきスローガンだと思う。問題は、留学先の質の保証をどうするかということで、いい加減なところに行ってただお金を使うというのであれば何の意味もない。留学先をどのように決めて、どう指導していくのか。

○　長期・短期を含めて、千葉大学は基本的に約２５０校の協定校に対して留学をしてもらうことにしている。１つ１つの協定について、よく検討した上で締結しているので、学生交流の質保障については問題ないと思っている。留学先も協定校ならばどこでもよいという話ではなく、例えば、語学研修ならどこ、インターンシップならどういうところ、ボランティアならどういう形でというように、大学が様々なプログラムを設定している。これらのプログラムは、ただ行って帰ってくればいいというわけではなく、事前学習と事後指導というパッケージにしているので、その点でも質の保証ができていると考えている。

◎　留学ということを考えると、海外の大学は９月に始まり、９月に終わるが、千葉大学が４月だと、それには合わない。思い切って９月にして、４月から９月の間は語学研修、９月から次の３月の間は留学とか、大学のカレンダーを思い切って変えた方が効果があると思う。

○　千葉大学ではターム制で、ギャップタームを作るというやり方に変えている。全国的には、ほとんどの大学が、ギャップタームを作って留学を促進している。海外の大学に合わせるという考え方もあるが、ターム制を千葉大学に導入する時に世界のいろいろな地域の学事歴を調べて、どのように合わせるかを検討し、ターム制としてギャップタームを利用している。これが最終的な姿であると私は思っていないので、今後も検討を続けたい。

◎　秋入学の場合、在学中は問題なさそうだが、卒業した後、就職が合わない。

◎　秋入学の話は、経団連が徐々に常時採用にシフトしていくので、あと数年経つと条件は満たしてくると思う。授業料の話だが、グローバル人材の確保ということでは、文系も理系も同様だろうから、今の時点で文系と理系を分ける理屈が見当たらない。文系と理系の差は将来的に考えなくてはいけないが、そういう時に民間企業の知恵としては、大学の財政に管理体系を取り入れてはどうかと思う。つまり、学部別にどういう採算になっているのか。将来的には、管理体系というものの考え方は大学にも入れざるを得ないのではないか。

◎　総合大学の千葉大学が、他に先駆けて授業料を引き上げることは、受験生に対す

る影響が大きいと思う。高い授業料の中でこれまでのように多くの志願者を維持できるかという問題はある。そのためには千葉大学が、学生、受験生から見て、是非学びたいと思える魅力のある大学になっていなくてはいけない。そのための方策であるグローバル人材育成新三本の矢は、よく考えられていると思ったが、もう少し徹底する必要があるのではないか。教育環境整備というのはやめて、グローバル人材育成に特化して、いくつかの授業は英語だけでやって必修とする。その前提として、英語のコミュニケーション能力を引き上げる。それから、千葉大学の売りである国際日本学を前面に出し、これを必ず学んでもらう。そして、全員留学だと思う。スマートラーニングがいらないという意味ではないが、千葉大学は、千葉国際教養大学になりますというくらいの感じで、だから授業料を引き上げますという方が良いのではないかと思う。また、経済的な理由によって千葉大学から排除されることはないということをもっと強調してよいのではないか。

◎　「千葉大学は全員海外留学をさせます」ということを、もっと宣伝してはどうか。

◎　１年間で１１万円、４年間で４４万円上がる。４４万円でそれに見合うだけの留学あるいは国際教育ができるのかということを計算をする人がいると思う。お金の問題ではなくて、ちゃんとそれに力を入れるということを納得できるようにしなくてはいけない。また、宣伝がものすごく大事だと思う。ホームページにちょっと書くのではなくて、電車の広告などで、「千葉大学は変わります」というのを示すことが大事だと思う。

◎　お金のない人でも勉強する人は救済できるという仕組みをちゃんと作ってほしい。国立大学らしいところは値上げしても残してほしいと思う。

○　この授業料値上げに対して、国立大学の中での千葉大学の位置付けは何かということをずっと考えてきた。国立大学は、次の時代をリードする人材を育成するところだと思っているが、リードする人材の育成像が、旧帝国大学と東工大クラスとは当然違うだろうと思っている。国からの資金の出方、運営費交付金その他の額を見ているとトップを育成する大学と比べて少し落ちている。Ｊ２の大学群が、どういう形でリーダーを育てていくかということを考えると、学部レベルで活発に教育していかないといけない。大学院レベルで研究を一生懸命やっていく学生を育てるというのは、第一義的な問題であるが、そこで良い研究者を海外から引っ張ってきたとしても実際、学部レベルできちんと教育していなければ、できる学生は東京大学に行ってしまう。そういう大学の姿をずっと見てくると、千葉大学は学部レベルで目の色が変わるような教育をして、そこで育った学生が大学に残ってくれて、その次の大学院に入ってくれる、そういう大学に、１０年、２０年かけて変えていかないと、千葉大学の国立大学としての位置付けというのは、無くなっても構わないという大学になってしまうのではないか。そういう意味で、今回こういった形でやらせていただきたいのは、国際教養学部が年次進行で希望者が増えていて、明らかにこのやり方が今の時代に合っている。学生を見ていると全然雰囲気が違う。私たちが学生を選ぶ時に、やはり前向きな学生、外向的な学生、そういう学生をまず選び取って、それで私たちの教育を施して、その中からどんどん育てていくのが、国立大学としての千葉大学の役目なのではないかと思っている。１０万円は高いかもしれないが、あえてここで打って出ようと。そうしないと前学長の時代から培ってきた基盤が次々に無くなってしまう。学長裁量経費６．４億円のうち、グローバルプ

ロミネントに６億円をつぎ込んで研究をやっている。そういう中で、今までスーパーグローバルがついているから辛うじてやっているけれど、そういうものが無くなった時点で、私たちがせっかくやってきたものが途絶えてしまう。そういうことを考えると、ここは１つ永続性のあるお金のソースを出していただいて、やらざるを得ないというのが偽らざるところである。高校の校長先生にお聞きしてみると、金額的には問題ないだろうとおっしゃっている。ただ、皆さんがおっしゃったように大学に行きたくても行けない学生のサポートはきちんとしていただかないとだめだということを盛んに話していた。現時点で１０万円をどう使っていくかを考えると、ここで基盤を作らせていただいて、そして、その中で次のステップに進んでいく。もう１つ考えているのは、奨学金だが、現在は、お金の無い人にしか出していないが、優秀な学生をどんどん海外に行かせるとか、そういう形の奨学金の出し方があっておかしくないと思う。年次進行でお金がだんだん増えていくので、その中で余剰が出てくれば、そういった支援も是非やらせていただきたいと思っている。どうしても首都圏にあって霞んでしまう大学になりかけていたのではないかと思う。ここで旗印を上げてそれを梃子にどんどん伸びていくというのがこれからの千葉大学の姿かなと思う。昨日も授業評価について学生と懇談をしていたら、学生たちが次々と発言していて、変わったなと思った。この流れは変えたくないと思う。

Ⅶ. 報告事項

１．平成２９年度に係る業務の実績に関する評価結果（原案）について

中谷理事から、平成２９年度に係る業務の実績に関する評価結果（原案）について、資料に基づき報告があった。

２．平成３１年度国立大学法人運営費交付金の重点支援の評価結果（原案）について

松浦理事から、平成３１年度国立大学法人運営費交付金の重点支援の評価結果（原案）について、資料に基づき報告があった。

３．附属病院の経営状況について

山本副学長から、附属病院の経営状況について、資料に基づき報告があった。

４．平成３０年度革新的先端研究開発支援事業（AMED-CREST）について

関理事から、平成３０年度革新的先端研究開発支援事業（AMED-CREST）について、資料に基づき報告があった。

５．その他

①平成３０年度国立大学改革強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）の選定結果について

学長から、平成３０年度国立大学改革強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）の選定結果について、資料に基づき説明があった。

②千葉大学初のクラウドファンディング「園芸学の未来を育てよう！アカデミック・リンク松戸プロジェクト」について

関理事から、千葉大学初のクラウドファンディング「園芸学の未来を育てよう！アカデミック・リンク松戸プロジェクト」について、資料に基づき説明があった。

③平成３０年秋の褒章について

学長から、平成３０年秋の褒章において、齊藤委員が紫綬褒章を受章した旨紹介があった。

以上